



16世紀の驚き：日本にとっての 西洋との初めての出会い

The surprise of 16th century Japan's first encounter with the West.

ポルトガルのイエズス会宣教師、ルイス・フロイスは、16世紀後半の37年間の日本での経験を膨大な手稿に残した。岐阜城や安土城への訪問、織田信長、豊臣秀吉、千利休らとの対話についても報告している。

ランドスケープ研究者でルイス・フロイスに関する著作を近年出版されたカステル＝ブランコ教授を招き、彼が日本の庭園、都市、風景を西洋人の目でいかに観察し、その特徴を表現したのか、比較文化研究の視点で論じてもらう。

日時	場所
2024年 4月14日 (日) 13:00~16:20	法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 26階 スカイホール

講師



クリスティーナ・
カステル＝ブランコ

PROF. CRISTINA CASTEL-BRANCO

リスボン大学教授
ランドスケープ建築家

通訳 **高川 定義氏**

元外務省在ポルトガル日本大使館公使参事官



形式	対面開催
対象	参加費は無料でどなたでもご参加いただけます
お願い	QRコードから事前に参加申込をお願いします

主催	法政大学国際日本学研究所
共催	法政大学江戸東京研究センター 法政大学エコ地域デザイン研究センター



法政大学国際日本学研究所
東京都千代田区富士見2-17-1
Email: nihon@hosei.ac.jp

